

# 太田切川 橋場礎石

多くの逸話が残る春日街道

春日街道は江戸時代初期に完成した街道。その街道沿いの太田切川に架けられた「はね橋」橋脚の礎石<sup>そせき</sup>。1968(昭和43)年2月、河川工事実施中に川のほぼ中央より発見された。礎石は河床に埋没している巨石(高さ約3m、幅約4.5m)に深さ13cm、径35cmの柱穴<sup>うが</sup>が穿ってある。この礎石によって春日街道の太田切川橋場跡が明確になった。この橋は、上野橋または北原橋と呼ばれており、明治中期まで光前寺への参拝道路であった。春日街道橋場跡碑が駒ヶ根側と宮田村側に建てられている。



太田切川の中で発見された巨石(礎石) 「春日街道橋場跡」の碑(左:駒ヶ根市 右:宮田村)



昔の太田切川は流れが二つに分かれ、水量も少なかった。現在は、北側河畔林の中に小川ほどの元の太田切川が流れている。駒ヶ根市と宮田村の境界はこの旧太田切川に沿っている。1877(明治10)年に伊那街道の大田切橋※(土橋)が出来た。それまでの橋は、出水に合うとたびたび流された。太田切川上流にある北原橋(春日街道のはね橋)は流されにくく、流されても復旧も早かったため、迂回路として利用された。 ※「大」田切橋



1601(慶長6)年、飯田の小笠原秀政が春日淡路守を工事奉行として着工、7年後に完成させた道。伊那街道の西、段丘と西駒山麓の間の平地を飯田から上伊那に入り、辰野町まで続く道。豊臣・徳川による争いがあったこの時代に開削された、村落も宿駅もない原野を一直線に走る街道。開削された理由については、さまざまな逸話が残っているが、はっきりわかってはいない。

## information

□ アクセス  
駒ヶ根ICから2km  
車→5分

□ 所在地  
駒ヶ根市  
(太田切川橋場)  
(碑:駒ヶ根市北割一区  
/宮田村新田区)



(国土地理院の数値地図25000(地図画像)を使用)